

E-Oral Presentation 7 (II-EOP07)

Chair: Miho Takahashi (Department of Child Health, Faculty of Medicine, University of Tsukuba)

Sat. Jul 8, 2017 6:15 PM - 7:15 PM E-Oral Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

6:15 PM - 7:15 PM

[II-EOP07-03] 先天性心疾患は出生後の発育不良に影響を与えるか？

○浅沼 賀洋¹, 中野 玲二¹, 伴 由布子¹, 古田 千左子¹, 田中 靖彦² (1. 静岡県立こども病院 新生児科, 2. 静岡県立こども病院 循環器科)

Keywords: 先天性心疾患, 低出生体重児, 子宮外発育遅延

【背景】極低出生体重児(VLBWI)において頭囲の子宮外発育遅延(EUGR)が神経発達障害のリスク因子であるとの報告があるが、先天性心疾患(CHD)がEUGRの原因となるかは明らかでない。【目的】VLBWIにおいてCHDが修正40週時の体重、頭囲に影響を与えるか検討する。【方法】2010～2016年に出生し当院に入院したCHD合併VLBWIの中から愛護的ケアのみを行った5例、染色体異常6例、修正40週前に死亡した3例、転院した6例を除外した12例を対象とした。このCHD群に対して出生時期、在胎期間、出生体重をマッチさせたCHDのない対照群24例を抽出。両群の修正40週時点での体重、頭囲とそれぞれの成長速度(出生時から修正40週のSD値変化: Δ SD)を比較した。修正40週時の体重、頭囲が10% tile未満を、それぞれ体重EUGR、頭囲EUGRと定義した。【結果】両群の在胎期間、出生体重、出生時頭囲に差はなかった。CHD群は在胎27週5日(26週0日-35週1日)、出生体重836g(504-1440)。以上は中央値(範囲)。疾患症例数はVSD 3、ASD 3、CoA/IAA 3、PAVSD/MAPCA 1、CoA合併単心室1、肺動脈狭窄1。修正40週前に動脈管結紮以外の手術施行例は5例。修正36週時の慢性肺疾患、消化管穿孔の発症に有意差はみられなかったが、CHD群で敗血症が多く、経腸栄養100ml/kg/day到達日齢が遅い傾向がみられた。体重EUGRはCHD群11/12例 vs 対照群23/24例で有意差はないが、40週時の体重SD値はCHD群で有意に低く($p=0.016$)、体重 Δ SDも低かった($-1.93(-5.37 \text{ to } -0.73)$ vs $-1.20(-3.51 \text{ to } -0.33)$; $p=0.0496$)頭囲EUGRはCHD群5/11 vs 対照群2/22(欠損値あり)で、CHD群で有意に多く($p=0.027$)、頭囲 Δ SDも有意に低かった($p=0.022$)。【結論】CHD群で頭囲EUGRが有意に多く、体重 Δ SD、頭囲 Δ SDが低かった。VLBWIにおいてCHDはEUGRのリスク因子となりうることが示唆された。より積極的な経静脈栄養、消化管合併症予防のための母乳栄養など、栄養法の改善が求められる。